

日本精神保健社会学会

THE JAPAN ASSOCIATION OF

MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

ニュースレター第 64 号

発行人：宗像恒次 編集人：山本美奈子

平成 30 年 10 月 15 日

事務局：栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内

TEL & FAX 028-627-7188

E-mail: info@jamhs.org

第 24 回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ

大会テーマ：『脳の多様性を生かしたメンタルヘルス』

～発達しょうがいとは治療の対象ではなく生き方である～

会員の皆様には、日ごろより学会活動の運営にご協力頂き、心よりお礼申し上げます。
今年も、日本精神保健社会学会学術大会・総会を筑波大学東京キャンパス文京校舎にて開催致します。学会員、非学会員と問わず、多くの方の参加をお待ちしています。
今年の大会テーマは『脳の多様性を生かしたメンタルヘルス』～発達しょうがいとは治療の対象ではなく生き方である～です。第1部の一般演題では、大会テーマに合致する発表も含まれ、幅広い内容の研究や実践報告が発表されます。口頭発表、ポスター発表と研究の成果や実践的な内容、会場からの質疑応答によって多様な知見を共有することができると思います。

第3部の特別講演では、明蓬館高校学校長の日野公三先生をお招きします。日野先生は、世界的に知られるようになった自閉症作家の東田直樹さんが入学したことをきっかけに発達しょうがいに特化した通信制高校を設立されました。学校設立前後の経緯や運営などの取組を含めたお話が伺えることと思います。日野先生のご講演を受け、シンポジウムでは、本学会長の宗像先生から脳多様性のあるがまをを活かす、心理社会環境を実現するための「問い」をフロアと共有し、全体討論を行う予定にしています。参加される皆様とともに、学び、考え、語り合う1日にできたら、幸いです。

今年度は、ニュースレターとともに学会の抄録をお送りさせていただきます。事前にご覧頂き、当日、ご持参くださいますようお願いいたします。

●開催日:平成 30 年 11 月 23 日 (金・祝日)

●会場:筑波大学東京キャンパス文京校舎

119 教室

東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」

出口 1 より徒歩 5 分 (右記参照)

●申込方法

1) 同封の学術大会参加申込書にて

学会事務局 FAX 028-627-7188

より申込む

2) 学会ホームページ

<http://www.jamhs.org/>

TOP PAGE「学術大会開催」のご案内から申込む

※当日の混雑緩和のため、事前振込みにご協力ください。

●参加費: 一般:4,000 円 (第 3 部のみ参加:3,000 円)

会員:3,000 円

学生 (大学院生含む):2,000 円 (*受付で学生証の提示をお願いします)

●プログラム

第 1 部 9:45~一般演題 (口頭発表)

11:20~一般演題 (ポスター発表)

12:15~昼食・休憩

第 2 部 13:30~14:00 学会総会

第 3 部 14:00~17:30 特別講演とシンポジウム

●懇親会 18:00~会場周辺で 2 時間程を予定 (別途、要実費)



特別講演のご案内

特別講演 「思春期の発達しょうがい生徒の支援と伴走を通じて見えてきたもの」

○ 日野 公三（明蓬館高校学校長）

1. 「学びたい」「福祉の対象になりたくない」意志を持つ発達しょうがい者の高校受け皿が不足



平成の世になって、わが国の特別支援教育は大きく前進したといわれる。小中学校において、アセスメントの実施、特別支援教育コーディネーターの配置、校内委員会の開催、個別支援計画の実施巡回指導などが普及した。しょうがい者に対する就業支援制度など、国内でもしょうがい者の周辺環境の整備・見直しが進んできている。小中学校

の通常学級では 6.5% の児童生徒が発達しょうがいであるとされる中、今や 97% の進学率を誇る高等学校においても特別な配慮が必要な生徒は多い。義務教育以後の「学びたい」「福祉の対象になりたくない」意欲をもつ発達しょうがい者への支援は未だ措置が立ち遅れている。

明蓬館高等学校 SNEC（すねっく）は中学特別支援級・通級の生徒、発達上の課題を持つ生徒、診断済みの生徒のための普通科高校の特別支援・伴走センターです！

2. 相談員と支援員体制、アセスメントの充実がカギ

上記の標語とともに品川・御殿山に第一号の SNEC がスタートしたのが、2013 年 4 月である。教育的アプローチに福祉的なアプローチを導入した結果、最初に力を注いだのは、相談員と支援員体制の充実である。生徒と保護者両方のニーズに沿った個別支援計画が策定され、いつでも発達しょうがいに知識のある専門の相談員と支援員が常駐し、生徒の相談に応じ、支援が行われる。こういった措置は、周りの環境に敏感な発達しょうがいを持つ生徒が「学ぶ」ために、必要不可欠である。また、生徒だけでなく、保護者とのコミュニケーションも常に意識をしており、相談員と保護者の対話の場も設けている。SNEC では、WISC、WAIS、K-ABC、WAVES などの心理テストを実施、検査結果を踏まえて保護者を交えて個別支援計画や履修計画など学習面の指導計画も立案している。

3. 重軽さまざまな二次しょうがい、三次しょうがいを発症しているのが中学・高校段階

の特徴

SNEC に在籍する生徒たちの多くが中学時代、特別支援級に在籍していたり、普通級にしながら学業への自信と関心を失ったり、通級指導学級に在籍するなど、しょうがいに応じた指導を受けている。なかには、情動、言動などから発達しょうがい傾向を疑ってはいても、学力に問題がないことから、支援漏れになっているケースもある。こうした生徒が、中学・高校生になり、鬱症状や引きこもり、摂食しょうがい、不安症状に陥っているケースも決して少なくない。多感な中学時代に自我との葛藤、周囲からのネガティブ・フィードバックを受けて大小さまざまな、重軽ささまざまな二次しょうがい・三次しょうがいを発症している。

SNEC のような、教育と福祉両面から生徒と保護者にアプローチする試みはまだ始まったばかりである。学業への関心を回復し、笑顔あふれる表情になっていく生徒たちを見ると、個別の要求に耳を傾け、時間を費やし、それぞれの興味・関心を引き出し、自己選択性を重視することによる効果を実感している。

シンポジウムのご案内

『脳の多様性を生かしたメンタルヘルス』

～発達しょうがいは治療の対象ではなく生き方である～

○ 司会進行 宗像 恒次（筑波大学名誉教授、日本精神保健社会学会会長）



脳多様性と言えば自閉症の脳であるが、自閉症児の脳に関する fMRI を用いた課題実施中の同時発火観察による神経結合の研究（Keown, Cell Reports, 2013）によれば、神経結合は近くの領域を結ぶ短い結合が多い。すなわち、同じような関心領域に集中しやすいモードをもつ脳特性である。ウインドウズを開発したビル・ゲイツが「心の狭さが重要なものだ」といったように狭い関心領域に集中し、関心を深めやすい。だから細部が気になる、自分の決めたやり方で自分のおもうようにしたい、自分のやりかたでしたい、それしかないと思っている。こうした脳特性は、障害ではなく、私が自閉スペクトラム気質と呼ぶ遺伝的に決まっているものであり、病気ではなく、個性であり、あるがままの生き方の根元となる。ところが、一般には融通が利かな

い、マイペース、わがまま、全体が見えない、応用が利かない、協調性がない、要求が多く、やりづらい、了解し難い物事への関心がある、と感じられていることが多い。こうした集中型モードの脳多様性を尊重できない家庭、学校、職場などが該当者のレジリエンスを低下させる、これまで通りの心理社会環境が続くと、自閉スペクトラム症というストレス症としての常同行動、自傷行動、情緒不安定、引きこもり、爆発、暴力行為、素行症、精神疾患、過食嘔吐、自殺願望などを回避しがたくする。

他方、ADHD(注意欠如多動症)の脳は、集中しようとするとしても、前頭前野の血流が低下しやすく、機能低下が生じ、気が散りやすい、集中困難、ミス多い、整理整頓苦手、忘れ物多い、探しものが多いなどの特徴をもつ。つまり、自閉症の脳が集中型モードをとり、同じ関心領域で深めやすい脳であるのに対し、ADHDの脳は、非集中型モードをとるのでひらめきが生じやすい脳である。それはトーマス・エジソンのように独特の感性で発想がひらめきやすく、新奇なことに敏感で、すぐに行動に転じやすい。こうした非集中型モードの脳多様性を尊重できない家庭、学校、職場などでこれまで通りの心理社会環境を続けると、ADHDというストレス症として自傷、自殺、躁鬱病、社交不安症、パニック症、気分変調症、分離不安症、素行症、薬物依存症、アルコール依存症などを回避しがたくさせている私は考える。

そこで、本シンポの課題は、私たちの脳多様性のあるがままを活かす心理社会環境を実現するためはどうすればいいかである。

★口頭発表およびポスター発表の準備のお願い★

1. 発表時間

口頭発表は、発表時間が 7 分、質疑応答が 5 分です。ポスター発表は、発表時間が 7 分です。円滑な運営のために、時間厳守をお願いします。

2. 当日の準備

例年より開会の時間が早くなっています。発表当日の準備とご協力をお願いします。

1) 口頭発表

データは電子媒体で持参し、9 時 30 分までに学会のパソコンにデータ保存してください。

2) ポスター発表

ポスター発表のスペースは、90cm×180cm（A4 用紙で 20 枚程度貼れるスペース）を予定しています。事前準備のうえ、9 時 30 分までにポスターを貼ってください（口頭発表終了後、すぐにポスター発表となります）。

○ 上田敏子（愛媛大学）

愛媛大学に赴任して6年目を迎えようとしている。着任後、結婚・出産を経て、昨年10月に職場復帰した。出産・育児を通じて痛感したことは、今まで妊娠している人や育児をしている人に対して全く共感できていなかったということだ。経験して初めてその苦労や責任の重さを知った。出産・育児に限らず、体験しなければ知ることのできない世界がたくさんある。病気、障がい、様々な生きづらさを感じている人々がいることを「想像する」ことが、多様性社会において重要ではないかと感じる。そのことに気付けただけでも、出産・育児は私の世界観を変える大きな出来事となった。

仕事の話であるが、大学に赴任して3年目にゼミ生を1人もつようになった。そのゼミ生は卒業後、警察官となり先日久しぶりに研究室を訪ねてくれた。就職して2年目の彼女に話を聴くと、同僚がすでにメンタルを病んで休職中だという。彼女は何を言われても受け流すタイプなので、厳しい職場ながらも臨機応変に働いているという。働き盛りの世代のはずが、難しい課題が山積しているように感じる。

他方、現在在籍中のゼミ生が1人おり、彼は自他共に認める「スマホ依存」の学生だ。話を聴くと、スマホを持つようになったのは高校からで、SNS上には何百もの友だちのネットワークがあるという。スマホは絶対に手放せず、スマホのない世界は考えられないくらい生活に密着している。そんな彼は高校まで部活動に所属していたが、今は授業とバイト漬けの毎日を送っている。部活動をしていた頃は、チームメイトそれぞれに役割があり、所属感を感じていた。「自分に与えられた役割」を全うすることで、自分の存在意義を感じることができた。だが今はそれが無い。SNS上には何百もの友だちがいるが、広く浅いつながりなので、輪はあっても所属しているという感覚はない。そのことを寂しくも思っている。卒業論文は自己肯定感や友達関係に焦点を当てて研究する予定である。

ところで、小・中・高の学習指導要領が10年ぶりに改訂され、保健の内容も見直された。中学では、生活習慣病の予防のなかで「がん」を取り扱うことになった。特に高校では、危険ドラッグの問題、精神疾患の予防と回復（うつ病等）、ストレスチェック制度など本学会に関連の深い内容が新たに盛り込まれた。子ども達の健康・安全を守る充実した保健学習の実践についても今後研究をすすめていきたいと考えている。

○ 山本美奈子（山形大学）

山形大学に着任し、1 年が経った。新たな環境のなかで、仕事の取組みや仲間との出会いについて、ご紹介したい。

現在、授業は初年次教育と 1 年次のキャリア教育を担当しており、前期 7 コマ、後期 4 コマを受け持っている。また、進路支援としてキャリアサポートセンターでキャリアカウンセリングを兼任している。

前期の自己理解（キャリアデザイン）の授業は、1 コースが 200 名以上と大規模であった。必修でないにも関わらず約 1,200 名、全学部の 7 割が履修する人気授業である。1 回の授業が、前回の授業の振り返り、個人ワークとして自己理解を深める課題に取り組み、個人ワークした内容をグループで分かち合う、最後に改めて振り返り、考えるというように 4 つのステップで構成されている。学生が円滑にグループワークができるように声かけ、気づきが深まるような促しと展開など、慣れない授業に悪戦苦闘しながら、この授業を立ち上げた教員と一緒に取り組んできた。授業改善のためのアンケートや公開授業など、授業の質向上が求められるなか、一緒に担当した教員からの指導、助言、励ましがあったからこそ何とか乗り越えることができたと感じる。また、学生から学ぶことも多かった。ある時、学生の振り返りシートに「この授業で僕たちが学ぶことは多いが、先生も成長しているように感じる」という記載があった。確かに学生とともに成長している自分を感じる。

生活環境は大きく変化した。単身赴任にて、最初は一人の生活をどのように過ごしてよいか、戸惑った。半年が経ち、新任研修などを通じて他学部の教員など知り合いが増え、孤独感が軽減した。仕事は、裁量労働制にて朝早くから夜遅くまで授業準備、学生対応、研究、地域連携と終わりが無い。そのようななかで、食事などひと時の時間を一緒に過ごす仲間がいることは励みになる。お互いの授業の工夫や研究活動、キャリアの経歴など、何気ない会話を通し話すことで緊張がほぐれる。親しくなった教員のなかには、火山の研究、国際政治、テントウムシの研究など多岐にわたり、これまでに接点がないような方達との出会いはとても新鮮である。

山形の夏は 35 度以上を超えることが多く、冬はマイナス 10 度以上と非常に寒い。2 度目の冬がもうすぐやってくる。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられております。平成 30 年度の年会費は、平成 30 年 10 月 1 日から平成 31 年 9 月 30 日の期間です。今年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願い申し上げます。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000 円 学生会員 3,000 円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と 2 年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス 滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局 TEL: 028-627-7188 FAX: 028-627-7188、E-mail: info@jamhs.org

入会金：5,000 円

会 費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名：日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏 名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男 ・ 女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
自宅住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
所 属 系 (○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			